

【概要】

1. 新規採用薬 : 該当なし  
外来限定採用 : ノクサフィル / タバリス / マンジャロ 7.5 mg
2. 供給
3. 採用変更
4. 添付文書改訂
5. 添付資料

1. 新規採用

①院内採用

該当なし

②外来患者限定採用

深在性真菌症治療剤

ノクサフィル錠100mg 2,740.8 円/錠

【組成】 ポサコナゾール 100 mg

【禁忌】エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、メチルエルゴメトリン、エルゴメトリン、シンバスタチン、アトルバスタチン、ピモジド、キニジン、ベネトクラクス〔再発又は難治性の慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）の用量漸増期〕、スポレキサント、フィネレノン、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、ルラシドン塩酸塩、プロナンセリン、トリアゾラム、リバーロキサバンを投与中の患者

【効能効果】

○造血幹細胞移植患者又は好中球減少が予測される血液悪性腫瘍患者における深在性真菌症の予防

○下記の真菌症の治療

侵襲性アスペルギルス症、フサリウム症、ムーコル症、コクシジオイデス症、クロモブラストミコーシス、菌腫

【用法用量】 初日は 1 回 300mg を 1 日 2 回、2 日目以降は 300mg を 1 日 1 回経口投与

経口血小板破壊抑制薬 脾臓チロシンキナーゼ阻害薬

タバリス錠 100mg 4,188.円/錠

タバリス錠 150mg 6,226.8 円/錠

【組成】 1 錠中ホスタマチニブナトリウム水和物 126.2mg(100 mg錠)

【禁忌】 妊婦又は妊娠している可能性のある女性

【効能効果】 慢性特発性血小板減少性紫斑病

持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬

マンジャロ皮下注 7.5mg アテオス 5,772 円/7.5 mg 1 キット

【診療科名】 内科 【申請医師名】 西岡秀典

【申請理由】 マンジャロ 5 mg で体重減少見られないため、患者さんが増量希望されている。

【組成】 1 キット中チルゼパチド 7.5mg

【効能効果】 2 型糖尿病

抗悪性腫瘍剤

カルケンス錠 100mg 12,921.9 円/錠

【組成】 1 錠中 アカラブルチニブマレイン酸塩水和物 129g

【効能効果】慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）

## 2. 供給

### ●出荷調整

・エトポシド点滴静注液 100 mg「サンド」：他社製品の影響に伴う限定出荷。割り当て供給へ。

### ●販売中止

・バファリン配合錠 A81(※院外採用)：2025 年 4 月販売中止、2026 年 3 月経過措置

### ●供給再開

・ラスリテック点滴静注用 7.5 mg：2025 年 5 月中旬より再開

## 3. 採用変更 ※①-③：在庫消尽次第切り替え ④：在庫消尽次第終了

### ①内服

・カルケンスカプセル 100 mg → カルケンス錠 100 mg (※院外採用)

・ベプリコール錠 50mg(33.6 円/錠) → ベプリジル塩酸塩錠 50mg「TE」(17.9 円/錠)

### ②注射 該当なし

### ③外用 該当なし

### ④院内採用終了（在庫消尽次第採用終了）

・ヘパリン Ca 皮下注 2 万単位/0.8mL「サワイ」(1068 円/瓶)：2024 年度使用なし、期限切れ破棄あり

## 4. 添付文書改訂

エプレレノン錠 25mg,50mg,100mg「杏林」(商品名：セララ)

### ● 10.1 併用禁忌(併用しないこと) 下線部追加

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
イトラコナゾール (イトリゾール) <u>ポリコナゾール (ブイフェンド)</u> <u>ポサコナゾール (ノクサフィル)</u> リトナビル含有製剤 (ノービア、パキロビッド、 <u>カレトラ</u> ) エンシトレルビル フマル酸 (ゾコーバ)	本剤の血漿中濃度が上昇し、 血清カリウム値の上昇を誘発 するおそれがある。	強力な CYP3A4 阻害薬は 本剤の代謝を阻害する。

ダイアモックス末錠 250mg ダイアモックス注射用 500mg

### ● 8.重要な基本的注意 追加

8.2 急性近視、閉塞隅角緑内障、脈絡膜滲出があらわれることがあるので、急激な視力の低下や眼痛等の異常が認められた場合には、直ちに眼科医の診察を受けるよう、患者に指導すること。

ドンペリドン錠 5mg,10mg「日医工」

### ● 2.禁忌(次の患者には投与しないこと)

<削除 2.2 妊婦又は妊娠している可能性のある女性(9.5 参照)>

### ● 9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。動物実験(ラット)で臨床用量の約 65 倍の投与量(体表面積換算)で骨格、内臓異常等の催奇形作用が報告されている。

## 5. 添付資料

院内採用薬の供給停止・出荷調整薬について(2025 年 6 月 28 日更新)

医療安全情報 No.223 「2024 年に報告書で取り上げた 医療安全情報」

医薬品・医療機器等安全性情報 No.420

DSU No.336